

久保

D 小池

これまでの経緯を全く知らないなので、変なこと言っているかも知れませんが、聞いた限りでは
○住生活と住居空間の対応というテーマ設定については、良いと思います。僕も非常に興味ある
テーマです。

○震災復興と絡めて、新しい住居と古い住居との比較から、現代生活と住居について考察すると
いうのは良く分かるし、道下を対象に選んだのも適切だと思います。

○日常と非日常という視点はこのテーマを考えるにあたって大切だとは思いますが、ここに絞
って考察する理由がよくわからず、何らかの説明、絞った合理性が必要だと感じました。

○みなさん言っていました、論文の選び方、情報の取り上げ方が恣意的で、合理性が無いよう
に感じられるので、これも何らかの説明が必要だと思います。

これらを踏まえて・・・

○2章と3章が逆だったのでは？

→①テーマを設定し、道下を対象に選定

②道下について、調査から得られた情報と、そこから分かったことを整理

③日常と非日常という視点が、道下での住生活について考察する上で重要だとわかる

④住生活や住居に関する既往の研究の中から、道下に関して考える上で重要だと考えられる
ものを抽出

⑤その研究の住宅調査の手法を分析し、分類・比較し、道下の特徴と照らし合わせる

⑥道下での住宅調査はこのようにするのが適切

という流れならば、これは論文を書くプロセスとして非常によくわかります。このあと、実際
に調査→分析→考察となるわけですね。

M2 手邊

■全体の印象

- ・ 既往研究から分類表（結果の図）にどう行き着いたかわかりづらい（既往文献の図表の欠如）
- ・ 導き出したヒアリング項目や分類表は一つの成果だと思う→10月の調査でどう活用できたか
- ・ 多くの研究をサーベイ→どの論文、人物を評価するか（自分の関心とマッチするものしないもの）
- ・ 研究者の系譜（図1）が整理されていてよかった
- ・ 伝統と現代の違いは何か（ただ新築であることが現代か）

■今後の発展に向けて

- ・ 今回、日常非日常でヒアリング項目を設定しているがなぜか
 - ⇨「居住者数、滞在者数」とどういう関係性か
 - ・ 道下の調査で興味を持ったことは何か（玄関にこだわる：家縁、座敷とっていた）
 - 玄関にどういう価値があるか（⇨再度既往研究に戻る）
 - 今回の分類表を用いるとどういう位置づけか
- （日常/非日常、数値化/ヒアリング、比較：過去現在、地域差、ディティール）

M1 朴

*コメント

- ・ 図、表が他の研究に比べて少ない（住宅系、黄表紙などの良い事例を参考とすることも大事）
- ・ 自分の論文で代表とする図、表を表した方がいいのでは
- ・ 図、表、写真の重要性：（建築計画系、特に生活環境計画研究室である我が研究室はフィールドからみる図、表を読み取る必要がある）
- ・ 日常、非日常や過去、現在などを研究に入れたのは面白いと思う
- ・ 論文の構成で2章（研究方法の紹介と分類）を2つに分ける方法は？？2章が膨大過ぎるので、
- ・ 章の部分を太い文字で書いたり、段落を開けた方が見やすいと思う